

## 【学校の教育目標】 豊かな心を持ち たくましく実践する子

### 〈児童の実態〉

○算数アンケートの結果から、全校の84.6%の児童が算数の学習を肯定的にとらえている（「楽しい」：51.2%、「どちらかといえば楽しい」：33.4%）。また、全校の88.0%の児童が「仲間と交流して、新たな考えをもったり、別の考え方ができることを知ったりすることができる」と感じている（「できる」：59.8%、「どちらかといえばできる」：28.2%）。これは、昨年度までの実践で、ICT機器を効果的に活用して考えを広げたり深めたりする活動を充実させ、仲間とともに学ぶことのよさを実感できる授業づくりに重点をおいたことによる成果だと考える。

△TK式学力検査の結果を領域別に見ると、「数と計算」「図形」「変化と関係」は全国平均を上回っているか同程度であった。一方で、「測定」「データの活用」に弱さがあることが明らかになった。

△児童の多くが聞いて理解できればよいという感覚をもって、教えてもらえるのを待っている。授業だけでなく、行事や児童会活動、特別活動などにおいても、自分から考えたり、活動を生み出したりすることに弱さがある。受け身からの脱却を目指したい。

### 〈市教委の方針と重点（教科指導）〉

**全ての子どもたちが、自己の力を最大限発揮して、学ぶ意義や喜びを実感できる指導を図る。**

- ・指導内容の系統性及び教科間・学校段階間の関連を踏まえ、一人一人の学習状況を評価し、その結果を教育課程の改善等に生かし、「指導と評価の一体化」による学習評価の充実・推進を図る。
- ・単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。また、各教科等の資質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図る。
- ・互いの見方・考えから学び合うことを通して、自己の考えを広げ深める等、質の高い学びを実現する学習集団を育成するとともに、学習習慣を確立する指導を充実する。
- ・「羽島子ども応援サポーター」と連携を図り、一人一人の状況に合った学習支援を行う。

### 【願う児童の姿】

- 主体的に学び続ける姿
- 課題に立ち向かう姿
- 他者と協働する姿

### 【研究主題】

**自分から学び続ける児童の育成を目指して**

～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させた算数科の授業づくり～

### 【主題設定の理由】

昨年度まで、ICT機器を効果的に活用して考えを広げたり深めたりする活動を充実させ、仲間とともに学ぶことのよさを実感できる授業づくりを行うとともに、日常とのつながりを意識した指導の工夫をすることで、学びを活用する力を伸ばすことに重点を置いて研究を進めてきた。特に、仲間と即時に考えを共有できるというICT機器の利点を生かし、比較して考える場を設けたり、相手や目的を明確にした交流を促したりするなど、仲間と学び深めることを重視して実践した。その結果、児童にとって学びの広がりや深まりを実感できる授業を行うことにつながった。

このように、課題づくりや課題追究の過程、まとめや振り返りなどの各段階で、自立的・協働的な学びを生み出す工夫をしてきたが、「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」ということを意識的に行っている児童の割合が十分とはいえない。そこで、本年度は、受け身からの脱却を目指し、自分から学び進めていく力を伸ばすことに重点を置いて研究を進めていく。児童が自分から学び進めるには、正解を求めることを目的とするのではなく、課題解決に向けて児童が自分に合った学び方を選び取ったり、理解度に合わせて学びを調整したりすることができる力を育てることを重視する必要がある。また、困ったときに周りの人の助けを借りながら解決したり、新たな気づきから学びを広げたりすることができるよう、学び合う集団づくりに力を入れることも大切である。以上のことから、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させることを通して、自分から学び続ける児童を育成することを目指し、上記の主題を設定する。

### 【研究仮説】

自分から学びに向かう環境づくりや学び合う集団づくりを行うとともに、児童自身が自分に合った学び方を選択したり、学びを調整したりする力を育てることで、自分から学び続ける児童が育つ。

### 【研究内容】

1 単元を通じた授業改善	2 単位時間の授業改善	3 自分から学び続ける意識や学び方を向上させる取組
--------------	-------------	---------------------------

### 【研究方法】

①単元でつけたい力（学び方にかかわる力を含む）を明確にした年間計画の作成 ②学習展開を工夫した単元指導計画と「学習のてびき」の作成	①単位時間の学習展開の見直し ②個人追究や全体交流の在り方を見直し ※学び合える集団の中で、各自が自己選択・自己調整しながら学び進めていける授業づくり	①「学習のてびき」の提示（ガイダンス）と学び方を意識的に身につける指導 ②自由進度学習の考え方を取り入れた授業づくり
--	---	---